

Rd.  
**7**

**OCT 2013**

平成25年10月30日発行

# RACING PRESS

*apan*

**SUPER GT ROUND 7  
AUTOPOLTS**



Super GT  
Series 2013

GT

Round 7  
AUTOPOLTS

10/5-6

Text  
島村元子

Editor  
吉川綱恵

Photo  
鉄谷康博  
加藤智充  
中村佳史

Special Thanks  
原 勝弘  
榊原寿雄

Cover Photo  
中村佳史

GT第7戦は九州で唯一開催されるオートポリスでの開催となった。土曜日に行われる予定の予選は雨と霧の影響を受けキャンセルになるという波乱含みの幕開けとなり、レースは日曜日に予選と決勝を行うというタイトなスケジュールで実施された。





# 不安定な天候に左右される中、 PETRONAS TOM'S SC430 が今季 2 勝目！



# GT500



決勝当日に変更された予選でポールポジションを手にしたのはNo.38 ZENT CERUMO SC430 (立川祐路/平手晃平組)。中盤のピットインを過ぎても38号車のトップは不動に見えたが、次第にペースアップきた36号車が詰め寄ってくる。そして残り2周のヘアピンカーブで36号車が一気に勝負に出て、38号車を逆転。第2戦の富士に続いて今シーズン2勝目となる大金星を手にした。





PETRONAS

PETRONAS



2nd



3rd



GT500 決勝結果

優勝	No.36	PETRONAS TOM'S SC430	中嶋一貴 / ジェームス・ロシター
2位	No.38	ZENT CERUMO SC430	立川祐路 / 平手晃平
3位	No.17	KEIHIN HSV-010	塚越広大 / 金石年弘
4位	No.1	REITO MOLA GT-R	本山 哲 / 関口雄飛
5位	No.18	ウイダーモデュロ HSV-010	山本尚貴 / フレデリック・マコヴィツキ
6位	No.24	D'station ADVAN GT-R	安田裕信 / ミハエル・クルム
7位	No.39	DENSO KOBELCO SC430	脇阪寿一 / 石浦宏明
8位	No.23	MOTUL AUTECH GT-R	柳田真孝 / ロニー・クインタレッリ
9位	No.37	KeepPer TOM'S SC430	伊藤大輔 / アンドレア・カルダレッリ
10位	No.32	Epson HSV-010	道上 龍 / 中嶋大祐

GT500



# 好調の GSR 初音ミクが連勝達成!

# GT300



## GT500 決勝結果

優勝	No.4	GSR 初音ミク BMW	谷口信輝 / 片岡龍也
2位	No.50	Exe Aston Martin	加納政樹 / 安岡秀徒
3位	No.52	OKINAWA-IMP SLS	竹内浩典 / 土屋武士
4位	No.11	GAINER DIXCEL SLS	平中克幸 / ビョン・ビルドハイム
5位	No.33	HANKOOK PORSCHE	影山正美 / 藤井誠暢
6位	No.30	IWASAKI OGT Racing GT-R	岩崎祐貴 / イゴール・スシュコ
7位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	山野哲也 / 佐々木孝太
8位	No.0	ENDLESS TAISAN PORSCHE	峰尾恭輔 / 横溝直輝
9位	No.16	MUGEN CR-Z GT	武藤英紀 / 中山友貴
10位	No.87	ラ・セーヌ ランボルギーニ GT3	山内英輝 / 吉本大樹



THE WINNER

No.36 PETRONAS TOM'S SC430

CLOSE-UP

Text by Motoko Shimamura

Photo: Yasuhiro Tetsutani



予選10位からの大逆転勝利！  
粘り強さを武器に、  
第2戦以来となる今季2勝目を達成

秋も次第に深まる中、迎えた第7戦。舞台となるオートポリスは九州唯一のレーシングコースとして知られ、またアップダウンに富んだテクニカルなレイアウトを持ち、多くのドライバーからお気に入りのコースとして名をあげるサーキットのひとつとして有名だ。しかし、第7戦の予選日は朝から天候不良に祟られ、公式練習もまともに消化することができず、午後の予選も開始延期を繰り返した末に日没を迎えるという大波乱だった。

結果、日曜日の朝から予選を実施、慌ただしく午後からの決勝レースを迎えるハメに。一方で、この短期決戦の頂点を極めたのは、LEXUS TEAM PETRONAS TOM'Sの36号車PETRONAS TOM'S SC430。なんと、予選では今ひとつ奮わず10位からのスタートであったが、チーム一丸となって取り組んだ戦略が奏功した。

レース序盤、先行したのは、2戦連続でポールポジション獲得を果たした38号車のSC430だった。一時はトップ独走の様相ではあったが、ここサーキットはタイヤへの攻撃性が高い路面を持ち、タイヤのピックアップが激しい。このため、うまくレースをコントロールすることがタイミングひとつで大きく狂ってしまう。

トップの38号車も多分に洩れず徐々にペースダウン。優勝を信じて突き進んできたが、後方からそれを上回る勢いでレースを消化してきた36号車に詰め寄せられ、残り2週の時点で逆転を許してしまった。36号車はタイヤを酷使しないクルマのセットが当たったようだ。このときステアリングを握っていたのは中嶋一貴。強さと冷静さを兼ね備えるクレバーなドライバーが粘り勝ちを果たし、また、チームが一丸となって作り上げた戦略が、チームに第2戦富士以来となる勝利を引き寄せたといえる。



# Special Eye





# Special Eye

